

## 113 日間にわたる渇水調整の終了

～渇水対策支部を解除しました～

- 雄物川流域では、8月、9月の合計降水量が平年の約4割程度と極端に少なく、河川流量の低下による取水障害等の懸念が生じたことから、8月9日に渇水対策支部(注意体制)を設置していました。
- 渇水対策支部設置は113日間に及び、渇水規模が大きい平成6年渇水の30日間を大きく上回り、玉川ダムが運用を開始した平成3年以降、最長の渇水状況となりました。
- 今年の渇水は、椿川地点の基準流量※1に対する河川流量の不足を勘案すると玉川ダム完成以降の平成3年から平成24年の22年間では1番目に河川流況が厳しいものでした。
- 雄物川水系渇水情報連絡会※2による情報共有と渇水対応による、関係者との取水節水量や田沢湖からの補給増量の調整等により、渇水を乗り切りました。
- 現在、雄物川の河川流況は回復し、貯水位が過去最低を記録した玉川ダムの貯水量も4割程度まで回復し、来年のかんがい期まで所要の貯水量まで回復する見通しとなったため、11月29日10時に体制を解除しました。

### 【これまでの対応等】

- 雄物川水系渇水情報連絡会※2では延べ12回の渇水対応会議を開催し、農業用水等の各利水者から約2割の節水協力を得るなどし、雄物川からの取水を確保し、農作物被害等の防止を図りました。
- 瀬切れ等の発生や魚類への影響も河川巡視では確認されておられません。
- 玉川ダムと田沢湖が相互の貯水状況等を考慮しながら、きめ細やかな下流への補給を実施し、下流での取水障害の発生を防止しました。

※1 渇水対策支部設置の目安となる流量

※2 各利水者及び関係機関による渇水被害防止、軽減に向けた対応を行う組織

〈発表記者会〉秋田県政記者会、横手記者会、秋田魁新報社湯沢支局、大曲支局、角館支局

### 問い合わせ先

雄物川水系渇水情報連絡会

- 【雄物川上流関連】国土交通省 東北地方整備局 湯沢河川国道事務所  
秋田県湯沢市関口字上寺沢 64-2 電話0183-73-3174 (代表)  
副所長(河川) 土田 恒年(内線204)  
河川管理課長 鬼同 哲夫(内線331)
- 【雄物川下流関連】国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所  
秋田県秋田市山王一丁目10-29 電話018-823-4167 (代表)  
副所長(河川) 槻山 敏昭(内線204)  
河川管理課長 菅井 明仁(内線331)
- 【玉川ダム関連】国土交通省 東北地方整備局 玉川ダム管理所  
秋田県仙北市田沢湖玉川字下水無92 電話0187-49-2170 (代表)  
所長 柴田 富士男(内線201)

# 渇水調整と効果

## 【雄物川渇水情報連絡会】

○雄物川水系の関係水利用者(農業、工業、上水、発電)間の情報交換や渇水調整を行い、今回の渇水では7回の渇水情報連絡会及び5回の関係機関部会、計12回の会議を開催し、渇水調整を行いました。

### 主な調整事項

- ・水利用者による約2割の節水協力。
- ・田沢湖の容量を活用した渇水対策。
- ・玉川ダムと田沢湖の更なる連携による渇水対策。
- ・田沢湖の地元、仙北市との調整。



## 【渇水対策(玉川ダムと田沢湖の連携放流)による主な効果】

- 農業用水 -----仙北平野の農地及び玉川合流下流の雄物川筋の農地(17,600ha)への供給を確保し、収穫は平年並みでした。(雄物川流域農地の約43%)
- 上水道 -----秋田市上水道(給水人口約317千人)への供給確保し、支障はありませんでした。(秋田一般家庭の98%)
- 工業用水道 -秋田火力発電所(約130万kw)への供給を確保し、支障はありませんでした。(一般家庭 約43万戸分)
- 発電 ----- 生保内水力発電所等6箇所(約11万8千kw)の水力発電の用水を確保し、支障はありませんでした。(一般家庭 約4万戸分)

# 雄物川流域の渇水概要1

## 【気象状況】

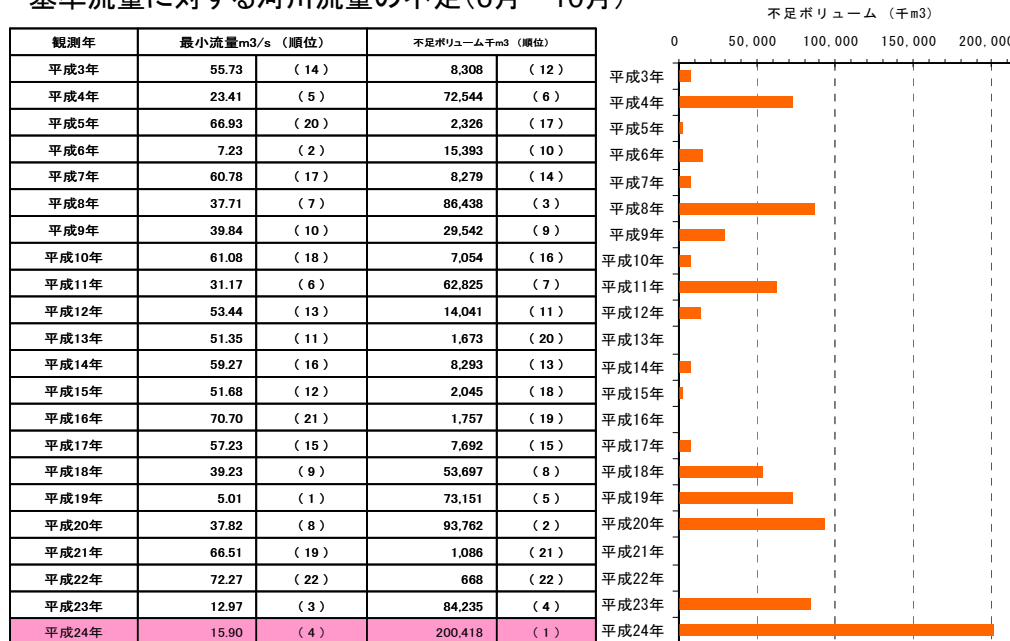
○雄物川流域の各地域の雨量観測所で観測された8月～9月の2ヶ月の降水量を平年値（過去10ヶ年の平均値）と比較すると、雄物川流域平均は、4割程度の降水量となっております。

雄物川流域の主な地点の降水量

観測地点	①平年値 (8月～9月降水量)	②今年値 (8月～9月降水量)	②/①
湯沢(雄物川上流域)	304.5ミリ	136.5ミリ	45%
横手(雄物川上流域)	319.6ミリ	142.0ミリ	44%
大曲(雄物川中流域)	362.6ミリ	133.5ミリ	37%
秋田(雄物川下流域)	337.2ミリ	238.0ミリ	71%

## 【樺川地点 渇水流況評価】

基準流量に対する河川流量の不足(6月～10月)



平成24年は、渇水状況が長かったことから、不足ボリュームが1番大きくなっている。

## 【渇水対応会議開催の状況】

月日	渇水対応会議等開催状況
6月22日	第1回雄物川水系渇水情報連絡会 <sup>※1</sup> 開催(定例会)
8月1日	第2回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
8月9日	雄物川渇水体制(注意体制)
8月16日	第3回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
8月23日	第4回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
8月28日	第1回田沢湖運用会議 <sup>※2</sup> 開催
9月4日	玉川ダム貯水位357.81m(11時)貯水率7.0% 管理移行以来最低水位到達
9月5日	第2回田沢湖運用会議開催
9月6日	第5回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
9月11日	第3回田沢湖運用会議開催
9月18日	第4回田沢湖運用会議開催
9月20日	第6回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
10月9日	第5回田沢湖運用会議開催
10月11日	第7回雄物川水系渇水情報連絡会開催(臨時)
11月29日	雄物川渇水体制(注意体制)解除

※1 渇水情報連絡会: 利水者及び河川管理者による情報交換や渇水調整を行う会議

※2 田沢湖運用会議: 田沢湖の水使用に関する関係機関の調整を行う会議

## 【主な渇水年の支部体制継続期間】

年	設置	解除	日数
昭和53年	7月27日	8月17日	22日
平成元年	8月5日	8月28日	24日
平成6年	8月9日	9月7日	30日
平成11年	7月29日	8月25日	28日
平成23年	8月5日	8月23日	19日
平成24年	8月9日	11月29日	113日

# 雄物川流域の渇水概要2 (雄物川)



雄物川上流の岩館地点(湯沢市)の流況は7月中旬から10月中旬まで基準流量※を下回りました。また、雄物川下流の樺川地点(秋田市)の流況は、7月に一時的に流量が回復していますが、6月中旬から10月下旬まで、断続的に基準流量を下回りました。なお、11月以降は、各観測所ともに流況は回復しています。

※基準流量: 渇水対策支部設置の目安となる流量

岩館地点(河川巡視時撮影写真)



渇水状況(岩館橋から下流を望む)



流量回復状況(岩館橋から下流を望む)

樺川地点(河川巡視時撮影写真)



渇水状況(黒瀬橋から上流を望む)

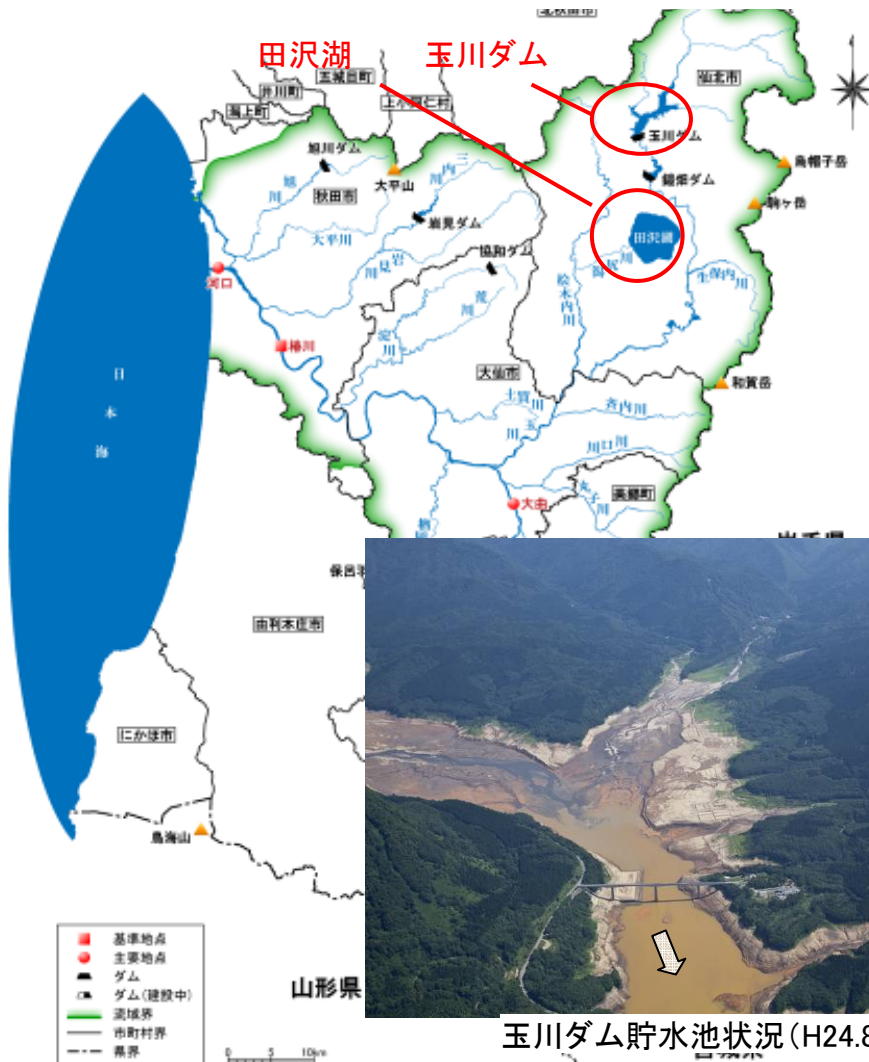


流量回復状況(黒瀬橋から上流を望む)

## 雄物川流域の渇水概要3（玉川ダム・田沢湖）

玉川ダムでは、6月から断続的に下流へ水の補給を行っていましたが、7月中旬以降は河川流況が著しく低下してきたことから、補給量を増加して対応しています。その結果、平成3年の管理開始以来、最も低い貯水位となりました。

また、玉川ダムと連携して補給を行っている田沢湖についても、この期間は通常2.5m程度の水位低下ですが、渇水情報連絡会での調整を得て補給に使用し、通常より5.5m程下まで湖面の水位が低下しました。



田沢湖渇水状況(H24.8.31)



玉川ダム貯水池状況(H24.8.28)

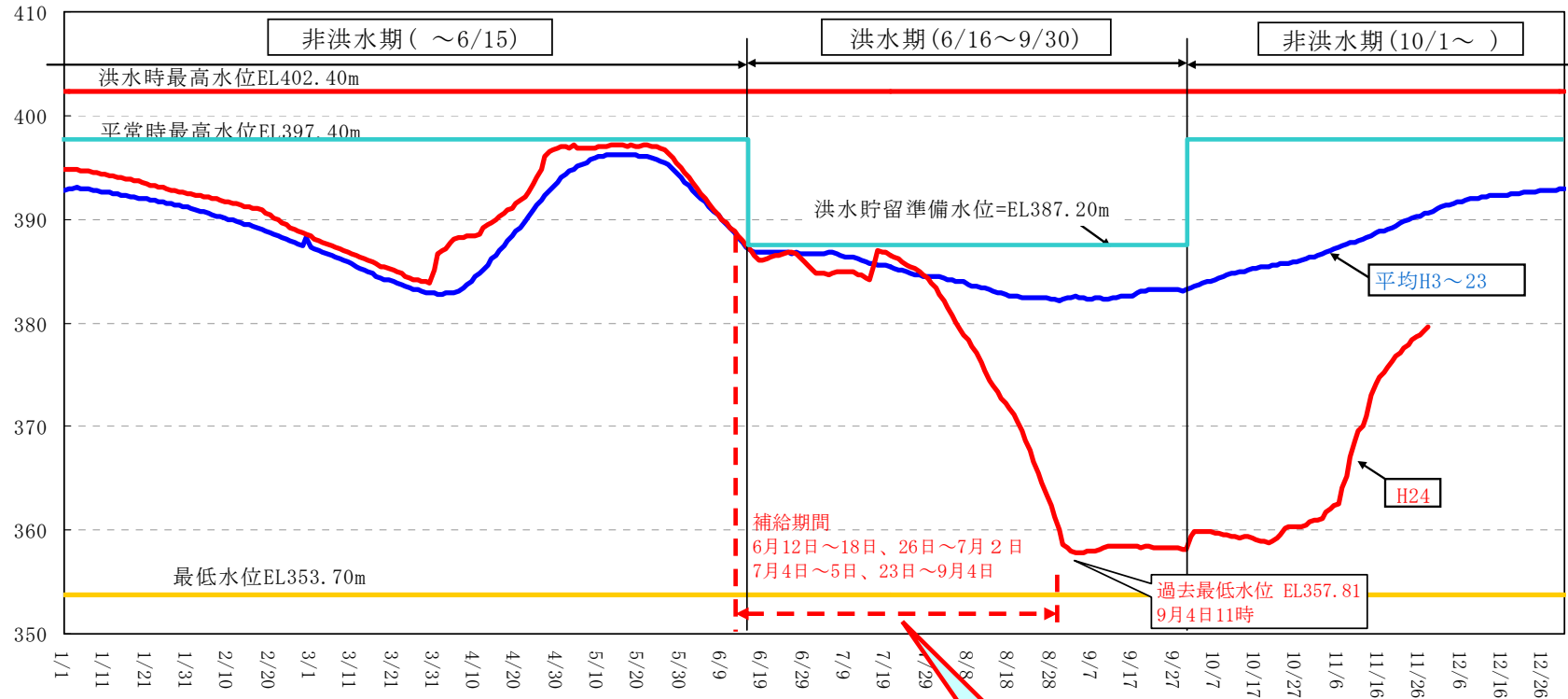


玉川ダム貯水池状況(H24.11.14)

# 渇水対策効果(玉川ダムからの補給)

玉川ダムでは、下流への用水補給を継続して行い、**約1億4千万m<sup>3</sup>**の補給を行いました。このため、貯水位が低下し9月4日には玉川ダム完成以来の最低水位357.81mを記録しました。

(参考:これまでの既往最低水位は平成18年9月29日の368.82m。)



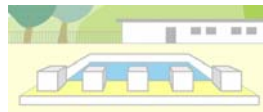
- 洪水時最高水位 洪水時に水を最大貯める事が出来る水位
- 平常時最高水位 利水目的のために水を最大貯める事が出来る水位
- 洪水貯留準備水位  
夏から秋にかけて、台風などに備えて治水容量を確保するための貯留の上限水位

補給量  
136,700千m<sup>3</sup>

## 約1億4千万m<sup>3</sup>の水量とは？



東京ドーム  
× 110杯分



25mプール  
× 29万杯



およそ130万人の人が  
1年で使用する量です